

## 直接交流を早期に実施した事例①

### 【小学部 7月開始】学級活動に参加

#### ○事例の概要

- ・知的障害教育部門 小学部5年生
- ・7月中旬に1回目の直接交流を実施しました。
- ・学級活動の時間に行われたレクリエーションに参加しました。

#### ○交流開始までの経緯

- ・前年度末に行った保護者面談において、次年度の直接交流の実施時期及び実施内容に関する希望を確認しました。

#### ○早期実施に向けたポイント

- ・前年度末の時点で保護者の希望を確認しておくことで、年度当初から担任が日程調整などの準備に着手することができました。
- ・地域指定校より4月当初に年間行事予定の提供を受けたことで、打合せ前に交流の開始時期や参加が可能そうな行事を検討することができました。

#### ○交流の様子

- ・交流当日は、じゃんけん列車などのゲームに参加しました。地域指定校の児童が当該児童に積極的に話しかける場面が見られ、当該児童もとても嬉しそうにする様子が見られました。
- ・直接交流を重ねる中で、活動の充実に向けて、地域指定校の児童が当該児童の好きなキャラクターのイラストをプラカードに描いたり、ゲームのルールを状況に応じて変更するなどの提案をしたりするようになりました。

#### 【交流の充実につながるポイント】

- ・前年度のうちに、保護者に交流に関する具体的な希望を確認しておくことで、年度当初から交流の開始に向けた準備を進めることができます。
- ・年度当初に地域指定校と特別支援学校が双方の年間行事予定を共有するにより、交流の開始時期を具体的に検討することができます。

## 直接交流を早期に実践した事例②

### 【小学部 7月開始】学級活動に参加

#### ○事例の概要

- ・ 肢体不自由教育部門 小学部6年生
- ・ 7月上旬に1回目の直接交流を実施しました。
- ・ 学級活動の時間に行われたボッチャに参加しました。

#### ○交流開始までの経緯

- ・ 2学期末に、次年度の副籍交流の希望について保護者にアンケートを実施し、次年度の交流内容や回数等について聞き取りを行いました。

#### ○早期実施に向けたポイント

- ・ 地域指定校との打合せを5月上旬から行えるよう、調整しました。

#### ○交流の様子

- ・ 当該児童は、自己紹介の場面で緊張する様子が見られましたが、地域指定校の児童からの質問に答えることができました。
- ・ ボッチャでは3～4人のチームで試合を行いました。当該児童がボールを転がすと、地域指定校の児童が歓声を上げ、当該児童にも笑顔が見られました。
- ・ 保護者から、「交流を早期に開始できたことで実施回数を増やすことができました。回数を増やせたことで地域指定校の児童と当該児童がお互いを理解し合い、より親密なコミュニケーションを図ることができました。」との感想をいただきました。

#### 【交流の充実につながるポイント】

- ・ 前年度のうちにアンケート等で保護者が希望する具体的な内容を把握しておくことで、地域指定校との具体的な打合せを早期から実施することができます。

## 直接交流を早期に実践した事例③

### 【中学部 5月開始】体育祭練習に参加

#### ○事例の概要

- ・ 知的障害教育部門 中学部2年生
- ・ 5月上旬に、1回目の直接交流を実施しました。
- ・ 保健体育の時間に、体育祭に向け、開会式、準備体操、入退場、100メートル走の練習に参加しました。練習での経験を生かし、体育祭当日も意欲的に参加しました。

#### ○交流開始までの経緯

- ・ 前年度の1月に副籍交流の内容について、保護者の希望を把握しました。
- ・ 春季休業中に区市町村教育委員会から地域指定校の通知をいただき、4月早々に各地域指定校から特別支援教育コーディネーターの担当者名、学級担任、年間行事予定の提供を受けました。

#### ○早期実施に向けたポイント

- ・ 前年度から地域指定校の担任に変更がなかったため、担任間の電話連絡により交流内容の打合せが行えました。

#### ○交流の様子

- ・ 当該生徒が走運動に自信をもっていたため、練習においても意欲的に参加しました。体育祭当日は雨天のため、体育館で競技内容も変更になりましたが、練習の成果により全体の流れに沿って参加することができました。

#### 【交流の充実につながるポイント】

- ・ 4月早々に地域指定校から学級担任名等の情報提供を受けることで、早期の打合せが可能になります。
- ・ 地域指定校の担任が持ち上がりの場合には、年度当初の打合せについて、対面にこだわらず、電話やオンラインを活用して行うことも効果的です。

## オンラインを活用した交流の事例①

### 【小学部】 直接交流の前日にオンライン交流を実施

#### ○事例の概要

- ・ 肢体不自由教育部門 小学部2年生
- ・ 直接交流に向けた事前交流として、日常生活の指導の時間に、地域指定校の児童とオンラインでやり取りをする時間を設定しました。

#### ○交流開始までの経緯

- ・ 前年度の直接交流の中において、当該児童が緊張から泣いてしまう場面が見られました。そこで、安定した気持ちで直接交流に参加できるように、保護者に対し、直接交流の前日に地域指定校とオンライン交流を行うことを提案しました。

#### ○オンライン交流実施に向けたポイント

- ・ 特別支援学校と地域指定校の担任間で、オンライン交流に使用するアプリケーションについて、事前に通信テストを行いました。
- ・ オンライン交流の実施に先立ち、特別支援教育コーディネーターが地域指定校に出前授業を行い、当該児童の様子等について紹介しました。

#### ○交流の様子

- ・ 両校をオンラインでつなぎ、挨拶や自己紹介、翌日の直接交流で行う内容について、共有を行いました。
- ・ オンライン交流では、賑やかな雰囲気の中で当該児童にも笑顔が見られました。翌日の直接交流においても、オンライン交流と同様の雰囲気の中で、当該児童は安心した様子で交流に参加しました。

#### 【交流の充実につながるポイント】

- ・ 児童・生徒が初めて地域指定校を訪問する場合、特別支援学校と比べて多くの児童・生徒がいる環境に緊張をすることがあります。このような状況が想定される場合には、直接交流の前にオンラインを活用した事前の交流を行うことにより、安心して直接交流に臨みやすくなります。

## 副籍交流の充実に向けたアイデア

### 区市町村教育委員会との連携

区市町村教育委員会と前年度のうちに打合せを行い、次年度の地域指定校への連絡を早期に行いたい意向を伝えました。4月早々に、区市町村教育委員会から地域指定校の名簿が届いたことで、地域指定校との連絡調整を早期から行うことができました。

(特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)

区市町村教育委員会主催の特別支援教育コーディネーター研修会において、直接交流の事例紹介や、各地域指定校にお願いしたい事項等について説明を行いました。また、副籍の情報共有や今後に向けた確認を行うことができました。

(特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)

4月に、区市町村教育委員会主催の副籍連絡会に参加し、区市町村教育委員会の担当者に地域指定校との連絡手段について相談しました。その後、区市町村教育委員会から、地域指定校への連絡用のメーリングリストの提供を受けました。それ以降、連絡事項については、一斉メール送信により共有しています。

(特別支援学校 特別支援教育コーディネーター)